

# 国 労 ち ば

国鉄労働組合  
千葉地方本部  
発責 加藤 晃一  
編集 高橋 弘幸  
【電話】  
JR 2930 FAX 2934  
NTT 043(238)5963  
FAX 043(238)5967

国労加入で、明るい  
職場を取り戻そう

能登半島地震・羽田空港の航空機衝突事故で亡くなられた方々、被害に遭われた方々に心よりお悔やみを申し上げます。

## 全国版

新年早々悲しい出来事が多発している。▼元日に能登半島を襲った地震により、220人以上の人命が失われ、多くの人が困難な避難生活を余儀なくされている。▼翌2日には地震の救援物資を運ぶための海保機と日本航空機が衝突するという事態も発生した。▼JRの3月のダイヤ改正が発表され、関係自治体から見直しの声が上がった。会社は「関係自治体に説明している」と豪語していたが今回の事象を見ると「まゆつば」ものである。経費削減を口実に自動改札機の一部を稼働停止し、駅の時計なども撤去されている。利用者の声をおろそかにし、信頼を損ねる今のJRの施策は国鉄末期の「乗せてやるから黙って乗れ」に先祖帰りしている。▼若年退職も後を絶たない。利用者の信頼を失い、今のままでは働けないでは誰が幸せになるのだろうか。各種施策を検証し、誰のための鉄道なのか自問自答してもらいたい。

# 組合員としての自覚を！

## 第36回千葉地区労働講座

1月13日、みどり寿司にて、一般財団法人 国労会館千葉地方部主催の新春労働講座と地本の旗開きを開催した。



熱弁する寺尾勉氏

寺尾元工務協事務局長より「この間の経験とこれからの運動について」をテーマに講演を受けた。

### 【講演内容】

集団就職で熊本から千葉へ来たが、当初は早く管理者になろうと思っていたので、管理者の言うことにもそんなものかと思っていた。同期の仲間より出世したいという気持ちもあり勉強した。就職から2〜3年頃は国労組合員であったが組合意識は全くない状態だった。

異動先の職場に私の人生を左右する人たちが転勤してきた。「組

合運動をしに来ました。よろしく」と言うあいさつにこの人はどういう人なのかと驚いたが酒を飲み、乗務員のストライキの応援や集会等に参加させられ、組合の勉強をしろと言われ、労働運動の本を読んだりして学習した。

### 安全闘争は意識統一から

この頃から安全闘争の始まりだった。それには企業内の告発闘争のための意識を持つことが大切であり、労働者の意識変革の闘いであった。意識統一をするため集会を呼びかけるが勤務が終了したら帰宅する状態だった。役員が勤務終了前に説得し、徐々に残ってもらえるようになった。線路が悪いのは自分たちの働きが悪いからという意識もあり、「合

理化で要員が削減され

大型機械が導入したにもかかわらず稼働できない。労働者は一生懸命働いているがそれでも線路は悪くなっている。ことを全組合員で意思統一してきた。責任は労働者には無いという意識を持つ時には時間がなかった。

線路が悪いから列車を止める闘いが提起され、それをどうするか夜遅くまで議論が重ねられた。組合員は自分には列車を止めることはできないと涙を流しながら話し合う場面もあったが線路の悪い箇所には「徐行板」を立てることを要求。列車を止める闘いは実施箇所を絞ってやることの意味統一を図り、実践してきた。

### 闘いは仲間づくりから

これらの闘いの中から労働者意識が出てきたと思っっている。その後、施設全体で当局と交渉し追求してきた。並行して合理化

は首切りであることを意思統一しながら闘ってきた。この闘いが出来たのは各分会の役員体制が整ってきたためだと思っっている。専門委員会や労働安全衛生委員会が直接現場の問題点を協議し、その中で線路が悪くなったのは何が原因か等、協議ができた。このような闘いの中から活動家の育成が必要であり、施設全体に若い活動家を意識的に育成し各分会に配置してきた。

### 国労組合員の自覚を持つ

闘いを続けるには一人でも多くの仲間を作ることが重要だ。問題は働く職場にある。国労組合員がその問題点を正しく捉え、そこで働く人々を巻き込んでいく。国労組合員でない人々には国労組合員が中心となって話し合いをし、要求として団交で協議していく。この繰り返しが意識的に行うことが大事である。簡単なことで

はないがそれしかないと思う。

組織状況は今とは違うが私は仲間作りから始まったことを経験してきた。仲間と話し合い、職場の問題点を議論することを通して信頼を勝ち取ることが大事だ。

ある「退職者の会」の会員が学校のいじめや教科書問題について地域の人たちと反対運動をしてきた。国労運動をやってきた結果であり、続けてきてよかったと語っていた。

国労組合員の自覚を持ち、みんなを取り組みをしよう。



島を襲った地震により、220人以上の人命が失われ、多くの人が困難な避難生活を余儀なくされている。▼翌2日には地震の救援物資を運ぶための海保機と日本航空機が衝突するという事態も発生した。▼JRの3月のダイヤ改正が発表され、関係自治体から見直しの声が上がった。会社は「関係自治体に説明している」と豪語していたが今回の事象を見ると「まゆつば」ものである。経費削減を口実に自動改札機の一部を稼働停止し、駅の時計なども撤去されている。利用者の声をおろそかにし、信頼を損ねる今のJRの施策は国鉄末期の「乗せてやるから黙って乗れ」に先祖帰りしている。▼若年退職も後を絶たない。利用者の信頼を失い、今のままでは働けないでは誰が幸せになるのだろうか。各種施策を検証し、誰のための鉄道なのか自問自答してもらいたい。

(利)

# 千葉統合・木更津分会 交流会開催

12月5日、地本会議室にて千葉統合分会と木更津分会との交流会が開催された。

はじめに主催者を代表して千葉統合分会の安田分会長が「以前も仕事中に倒れて救急搬送された駅員がいたが、一人勤務の職場ではいつも不安を抱えて仕事している。安心して働けるように労働実態を見つめ直していかなければならない」と、あいさつ。

続いて、千葉地本の北嶋書記長から「地本はこの間と将来の組織状況を鑑みて分会再編に取り組んできた。また3日には千葉・江東

の両支部と地本家族会の解散レセプションを行ってきた。主催者からも言われたが、この間の会社の合理化による要員削減などにより仕事内容が大きく変化している。職場・分会から要求を取り組んでほしい」と、あいさつがあった。

その後、運協からこの間の支社の合理化と問題点が報告された。

続いて、木更津分会の石橋分会長より千倉エリアの作業について報告がされた。

駅から社員をいなくして拠点職場から巡回に行くため、会社は「無人駅ではない」と

言うが、実態はA番が千倉駅へ出勤して車で南三原駅へ向かう。B番は南三原駅へ出勤してからA番の車に同乗し、券売機の締切や清掃作業をしに各駅を巡回する。2人乗務と言われていたがフタを開けたら千倉と南三原間は1人乗務だった。

支店当直は3徹で遠隔操作に対応しているがモニターが少なく、どこまで見れているのか不安だ。千葉線の担当箇所も増え、さらには成田線我孫子口の遠隔操作も増えるため4徹体制になるという。

参加者から無人の間トラブルや車の運転

についてなど様々な質問や発言が出された。

最後に安田分会長が

「お互いに情報交換し共有化していくことが重要になってくる。清掃作業員も掃除だけでなく遺失物を扱ったりと多様化させられている。80km圏外の駅社員の高齢化もある中、安心して働ける職場を作ることは重要になってくる。

今後、こうした交流会を開催して事象や問題を共有していきましょう。」と集約して第一部を閉会した。

第二部は場所を移しさらに突っ込んだ話や聞き漏らした事などを出し合い懇親を深めた。

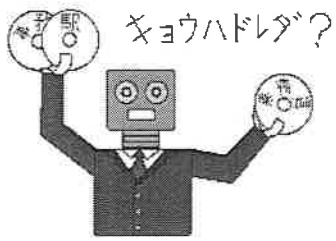
## 命を預かる責任は重い

1月2日、羽田空港の滑走路上で航空機が衝突し炎上するという事故が起きた。残念ながら海上保安庁機の搭乗員に亡くなられた方がいたが、満席に近い旅客機からは乗員も含め全員が脱出できたことに称賛の声が上がっている。

空と陸との違いはあるが大勢の命を預かる輸送機関として考えさせられることが多い

た。事故は起きないに越したことはないが万一の時の訓練がいかに必要か。訓練だけでなく仕事に集中できる環境を整えるのも大事なことだ。

統括センター化し乗務員に本来の業務以外をやらせているJRはどうだろうか？ 労基署から「乗務員の職務はふさわしくない」と言う安全を考慮した見解にも拘らず慣れない



仕事をさせるのは如何なものか。「乗務時に集中すればいい」とでも思っているのだろうか、その集中するための環境を用意するのは会社の責務のはずだ。命を預かる責任は重いことを肝に銘じてほしい

3月のダイヤ改正？が発表され、京葉線の通勤時間帯の快速運転廃止に利用者のみならず自治体や経済界から反対の声が上がった。

予想外の猛反発に現在も運転されている内房・外房線からの快速をそれぞれ1本ずつ走らせるとい

う修正ダイヤを発表したが前代未聞のことだ。JRとしては精一杯の譲歩のつもりだろうが東京着が7時30分前後と早いうえで特急列車が増発され不満は解消されていない。

そもそも事の発端は利用者を顧みない一方的なやり方であった。経費削減を謳い時計や旅客用トイレを撤去し、みどりの窓口も相次

## 紆余曲折の末に

いで閉鎖し、改札窓口にも駅員がいらない。JRは国民の財産である国鉄を引き継いだ責任がある。国鉄時代に戻ったかのような「乗せてやる」「列車を走らせるから黙って乗れ」的な姿勢に利用者も黙っていられなくなったのだろうか。全ての利用者が満足できるとい

うのは難しいが、経費削減を理由に利用者を顧みない施策を続けるのであれば、さらなるサービス向上を掲げた国鉄の民営化は失敗であったと言わざるを得ない。

これで終わりではなくJRに厳しい目が向けられていることを忘れてはならない。

## 労働者主体の春闘を 構築し勝利しよう！

千葉駅頭宣伝行動

日時：2月13日(火) 18時〜

場所：千葉駅前  
(旧クリスタルドーム前)

第184回拡大地方委員会

日時：3月2日(土) 13時〜

場所：地本会議室

2024春闘勝利！ 千葉県総決起集会

日時：3月9日(土)

18時30分〜

場所：千葉市文化センターセミナー室

## お詫びと訂正

1月1日号の運協定期委員会の記事に誤りがありました。

安田副議長の氏名は『安田 正浩』が正當です。ホームページには修正済みの掲載しています。大変失礼いたしました。(敬称略)

